

シリーズ
52

生涯学習

成人期の学習

親として母として

第3回 幼・保合同家庭教育学級

運営委員代表 末廣由美子

「私は、千人以上の人の前でしか本当は講演はやらないんですよ。」

この第一声で始まった講演、出席のお母さん方は、皆さん「えっ」という顔をされました。講師先生は、東京家庭教育



育研究所長、川越淑江先生で二児のお母さんです。

しかし、最初の一声も先生の軽快なテンポと話術で私達を引き込まれ、その後のお母さん方の顔は、笑顔と真剣な顔の二つの表情の繰り返しでした。

先生は、「ニューファミリーママの忘れ物」という題で講演をされました。

話の内容は、赤ちゃんはお腹の中にいる時からお母さんが分かるし一度抱かれればお母さんを忘れない。母親が子供にどのように対応するかによって、子供は決まってくると言われました。

子供を育てるのに一番必要な事は、「豊かな心を育てる」事であり、子供の知・情・意の能力を、バランスよく正しく

伸ばす事と言われました。(知的能力・情的能力・意的能力)

しかし今のお母さん方は、この心を育てる事を忘れてはいないか。素直な心がないと、子供が非行に走ったりするのだとの事でした。しかし、これも子供達は親をみて育ちますから、お母さん自身が素直でない子供も素直な心が生まれにくいし、素直な心がないと他の色々な心がわいても成り立たないのです。

お父さん、お母さん、もう一度親の役割とは何かを考えてみて下さい。太陽にたとえるなら、お父さんは光でありお母さんは、ぬくもりなのです。子供の生活を中心に考えて、子供とはどういうものか子供を変えるには親が変わらなければいけないのです。「百の言葉より一つの実行」

自然の生活の中より始め、まずあいさつや返事から実行してみてください。素直な心で快いひびきの「おはよう」「はい」から始めて下さい。今、私達が育てている子供達は、21世紀からの預り物です。自信を持って21世紀へ送り出せるよう、みなさん、ガンバッテいきましょ。

先生の講話は、現在から未

第19回清風キャラバン

歩きぬいたぞ！ 21 km

7月10・11日の2日間、恒例の清風キャラバンが行われました。

初日、萩青年の家での野外炊事では、自分たちの手で野菜を切り、火をたき、そしてきちんとかたづけられることを体験しました。

日ごろ、ガスや電気を使った器具に慣れていて子どもたちは、火をたくにも一苦労の様子。野菜の皮をむくときなどは真剣な目つきでした。自分の体を動かして覚えたことは、子どもたちに確実に身につけていくことでしょう。

翌日は、萩から三隅までの約21kmの道のりを歩きました。気温はやや高かったものの、さわやかな風に恵まれ、全員が元気に歩きとおしました。

来を見とおしたものでした。

今、私自身が忘れかけていた事を、先生は教えて下さいました。

先生の一つ一つの言葉に、納得し、反省させられる一日でした。チョットした事でもつい小言を言ってしまう、子

苦しさやつらさに打ち勝ち心身のたくましさや養うことに役立ったことでしょう。

清風キャラバンを支えていただいた青年団、婦人会、その他の関係者の方々、ご苦労様でした。



供の話しを聞くとうとしていないのです。一度にすべてを変える事は難しいので、何か一つから始めようと思っていま

す。子供が、心から素直な気持ちで「お母さん、大好き」と言ってくれるように。